

樹木、校庭管理のポイント

12 観察対象木の管理

Point

- ・観察できる枝を残す
- ・経路を整備
- ・周囲の環境を整備



歩道沿いの樹木は幹や枝葉を容易に触察することができるので、観察対象として適しています。大人の手がやっと届く高さの枝であれば、児童生徒の顔に当る危険がなく、必要に応じて手元へ引き寄せて観察することができます。大人の手がやっと届く高さの枝を積極的に残すようにしたいものです。枝に目印のビニールテープを結び付けて、「〇年理科観察対象」などと書いておけば、教材であることが分かり、四季の変化を繰り返し観察する場合などにも便利です。観察対象木周囲の地面の傾斜ややぶを整備し、安心して観察できる環境を整えることも重要です。

かぶれやトゲの危険がある植物については、事前に除去するか児童生徒が不用意に接触してしまうことがないように工夫する必要があります。